

腑抜けにされた日本

宇城憲治



宇城道塾（東京中級）

戦後60年以上経ち、敗戦直後の日本に対するアメリカのさまざまな公文書がオープンになってきました。それらを見ると、なぜ今の日本人がこれほど腑抜けにされてしまったのかがよくわかります。そういう意味では戦争は戦後も別な形で続いていたことがわかるのです。アメリカ、GHQ占領下、あまりにも日本が冷静なので、なにか企んでいるのではないかと疑うほどアメリカは日本を恐れました。日本人は頭がよく、肚が据わり、人間としての次元が高かったのを知っていただけに、アメリカは、日本を二度と立ち上がれないようにするための徹底したイデオロギー政策をとったのです。すなわち、日本人を「魂の抜けた豚」にするという巧みな政策です。そしてその政策どおり、日本人は気づかないままに、見事に腑抜けにされました。

まず教育がやられました。そして書物は検閲制度や焚書によって、アメリカ側にとって好ましくない本は全部没収されました。占領軍を非難する文章も駄目、逆に誉める文章も駄目。当事の日本人の心と肚の据わり方がわかる本がたくさんありましたが、それらを全部焼き捨てているわけです。

焚書図書の中には、戦争を経験した人の手記があります。当時の日本人がどれほど肚が据わっていたかは、そうした手記を見ればよくわかります。今とは比べものにならないほど、「肚の据わり方」が違うのです。またそれ以前の日本の歴史や幕末の時代を見ても、日本人がもともとやかに肚が据わっていた国民かがわかるのです。その肚を戦後、日本人はなくしてしまいました。

また、日本人は「誇り」や「恥の概念」を非常に大切にしていた国民です。勤勉でまじめで、弱い人を助け、人を裏切らない、これらが日本人の誇りとされていたことでした。

現在ブラジルや南米などでは、日系人が各界で活躍しています。その背景には、戦前戦後に移住した日本人の生き様、行動がありました。割り当てられた荒地の野山の開拓を原住民が投げ出してしまいうなかで、日本人は最後まできっちり開拓し農作物を実らせる仕事をした。そういう勤勉さや正直さを現地の人々は見ていたのです。

そうして築かれた日本人に対する信頼は、日系人の



宇城道塾（大阪中級）

多いアメリカのロサンゼルスなどでも同じです。ロスにセミナー指導に行った時、肌身でそれを実感することができました。しかし、最近ロサンゼルスに日本から仕事で赴任してくる30代の親の子供は、躰が日系人に比べて悪いそうです。それほど60年前に移住した当事の日本人と今の日本人とは差があるということです。親に刃向かったり、礼節を欠くなどということは、本来日本にはなかったのです。なぜそういうものが失われてしまったのでしょうか。それらを取り戻す方法は一つしかありません。新たに「教育」し直すということです。

なかでも日本文化の根源ともなっていた武術は、戦後GHQによってとくに強い規則が敷かれ、「武道」という言葉に変えられるなか、その内容は巧みにスポーツ化の方向に向けられていきました。それらが今、大きな「つけ」となってあらわれています。世界不況の現在、日本は想像以上に厳しい時代を迎えると思われれます。なぜなら日本人は半端でないほど臍抜けになってしまったからです。

臍や心をなくした日本人に、今何が起こっているか—— やたらと悩んだり悔んだり、精神力が弱くなっています。さらに耐える力がなくなっています。また庶民とかけ離れた弱者切り捨ての政治によって、社会全体に希望がなくなっています。希望がなくなると、人間は「ど

うでもない」と思うようになります。いま無差別に人を刺すなどの事件が増えているのも、その一例だと思えます。刺した人間は絶対に許せませんが、その背景にある現状を変えずに対症療法を続けていたら、「二度とくり返してはならない」という答えを出せるはずがありません。

弱くなってしまう日本、臍抜けにさせられた日本を強く誇りある姿に戻すにはどうしたらよいのでしょうか。それには、かつてのような臍の据わった、心をもった日本人を取り戻すことです。本来、私たち日本人には、臍が据わった日本人としてのDNA（遺伝子）があるのです。それは祖先から連綿と引き継がれてきたDNAです。そのDNAにスイッチを入れなければなりません。

『気の開発メソッド 初級編』では、身体に気を流す三原則やその活かし方を紹介しました。中級編の本書では、さらに「気」のエネルギーとその深さに触れています。本書が「気」によって潜在能力を発掘し、これからの多難な時代に生きていくための「臍」や「逃げない身体」をつくる一助になれば幸いです。

2009年2月 宇城憲治

気で 潜在能力を 引き出す

—— 無から有を生み出す
——
根源は感動にあり ——

**感動の体験は、眠っていた
脳を目覚めさせる**

今私たちが意識して何かをしようとする時、その事の起こりはすべて頭(脳)からの命令によるものです。頭からの命令は、身体動作としては一つのことしかできません。すなわちそれは身体が部分体となり、居ついた状態にあるということです。またそういう時の身体は「気」が流れていない状態にあります。身体の居つきは同時に心も居つかせ「気の欠如」をまねきます。つまり思考がストップし視野が狭くなる状態です。

逆に身体に「気」を通すと、視野は広がっていきます。頭でいくら視野を広げようと思っても広がるものではありません。すなわち知識による視野と、体験からくる視野は根本的に異なるということです。「知識」の情報というのは、勉強する、本を読むというように頭から入ってきます。しかし「体験」は、身体で直に経験することによって入ってくる情報です。たとえば身

体の傷や怪我の跡は何をしてできた傷なのか、よく覚えているはずですが。こういう体験は、身体を通して記憶されているからです。

記憶される場所は、やはり「脳」ですが、頭から入った記憶と、身体を通して入った記憶とは収まる場所も、また引き出される場所も違うのです。

知識の場合、それまでの経験や情報がただ「知識」としてそのまま出てきます。

これに対し、たとえば連なつた10人を片手で押すなどという体験は、(普通だったらどんなに力を込めても無理ですが、それが実際にできるといふ体験をした場合)、その「できた」といふ体験・事実、「とんでもないことをやった!」と脳は感動し、その感動とともに体験した感覚が脳にインプットされ、その結果眠つていた脳、あるいは存在しているが未発達な脳が目覚め、記憶となつていくと思われまふ。そしてそのような繰り返しによって、自分のなかの潜在能力が引き出されていくわけです。

このように、感動の体験は、脳・身体間

のスピードある経路を確立し、その人独自の考え方や潜在能力を引き出す根源になります。すなわちそれは身体から出る知識であるということです。ノーベル賞を受賞するような人にはそのようなプロセスがあったからと思います。とりわけ、物理、化学の分野の人たちにはそれを感じまふ。

「気」は自分のなかにある

宇城道塾の目的の一つは、このように人間に備わっている潜在能力を引き出すことにあります。そして身体インプットによって脳を覚醒させ、無から有を創造できる人間を育てていこうとするものです。

自分では絶対に「できない」ことを、気を送られることで「できる」といふ体験をする。その事実から身体が頭よりずっと優秀であることがわかります。

愛とはどこからくるのか——頭からは絶対に生まれてきません。愛とは人に対して何かを施した、助けた、感動した。そこから生まれてくる心のことです。「相手を思

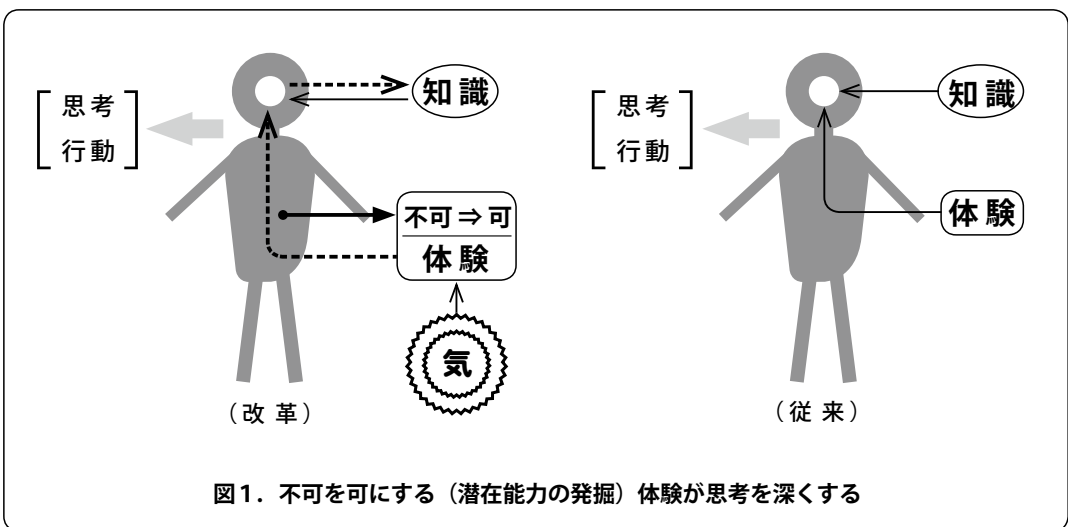


図1. 不可を可にする(潜在能力の発掘) 体験が思考を深くする



① 気を送ってもぶついたりせず



② 全員が一斉に複数を片手で押す



③

宇城道塾（東京・大阪 中級合同合宿）



気を通してもらい女性が男性 20 名を片手で押す

「いやる」という知識、言葉ではなく、「実践」という行動に結びついた心そのものなのです。それが気の源泉にもなっていくのです。

写真の実例のように気を通されれば女性でも 20 名くらいの男性を簡単に片手で押すことができます。気がいかに凄いパワーをもっているかということですね。

しかもその気は自分のなかにある。その気を引き出すのが宇城道塾の基本になっています。そしてその事実体験を通して、精神論でなく、実体として自分自身を信じる、すなわち「自信」をつくることにあります。

〈一列を押す〉ー実践指導の感想より

● 20 人ほどの列を手で押すと、最初自分の力では当然一人目も押すことができませんでした。その時は、相手のことを考えず自分に集中していました。先生に気を通していただき、力を抜き、押した瞬間、相手との調和を感じました。その瞬間心臓の動きを感じ感動しました。列の

後ろまでエネルギーが届いて列全体が後退しました。調和のパワーに感動しました。
（大阪道塾中級 大学院生 27 歳 B.K.）

● 一列に並んで一番前の人がある列を押す検証では、力のない女性でも気が通れば簡単に大勢の人を押すことができる。誰にでもその可能性があるということは大きな希望になります。この体験をこの場だけの体験で終わらせず、また凄かったで終わらせず、日常生活において如何に実践していけるかが今後私の最大の課題であります。
（熊本道塾 セレクトショップ経営 41 歳 R.K.）

● まずは私みたいに体が小さな女性でも、男性 15 人余りを一気に押し倒してしまえるというのには、本当に驚きました。これにはとても勇気をいただきました。そして押し倒した時に身体にとっても熱いものを感じて、15 人先の一番後ろの人にまで私が直接触れているような、そんな不思議な感覚があったのです。私に向けてくれたみんなの「気」がそのままひとつになって、私の「気」に調和されたようなそんな感覚でした。この「調和」というのがとても大事なんだと気づきました。反発ではなくすべてに調和すること、先生がいつも言われている偉大な「愛」の力が働くのだと思いました。
（熊本道塾 アパレル 38 歳 T.N.）

1

一瞬にして 強くなる 身体の不思議

—— 気が送られると
身体が考えられない
強さに変わる ——

「人間鉄棒」の例で

【写真1】

- 3人一組で中央の人が自分の両手を左右に大きく伸ばし両側の人の肩にかかけます。
- ① その状態で両手にそれぞれぶら下がると、もちこたえられなくなり崩れてしまいます。
 - ②③④ 気を通してもらうと、瞬時に腕が勝手に鉄棒のように強くなり、2人が逆上がりや飛び上がりをして自然体でいられます。

この気による人間鉄棒は誰がやっても同じ結果になります。いくら気合いを入れ頑張っても、また自分に暗示をかけても不可能です。無理をすれば腕が折れるでしょう。しかし、気が流れると人間には誰のなかにも、このような力が存在しているのです。不思議ですね。現状の知識ではこの答えは出てきません。またいくら理屈をつけてもできなければ意味がないということです。

【写真1】

① 通常大人2人が左右の手にぶら下がると、もちこたえられなくなる



② 気を通してもらうと、2人がジャンプして腕に乗っても大丈夫



③ 足も自由に動き、苦しくない



④ 2人が逆上がりしてもまったく問題ない

